OMC News 大阪ムービーサークル

OMC事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm

平成27年12月(2015年)No600

OMC会報「600号」の重み

会長　合原一夫

今年最後のOMC会報が丁度600号だという。一年12回発行だから、600号というと毎月欠かさず発行してきたとして50年という答えが出てくる。当初の頃のものが現存しているが、手書きのガリ版摺りのものであった。先人たちも苦労してこの大阪ムービーサークルを盛り立ててきたのであろう。公開映写会も今年55回目であったから、会としては会報以前から始まっていたことになる。私がこのクラブに入ったのは昭和47年だったので今年で43年目になる。当時、川畑健二氏が会長であり、8ミリ全盛時代であった。その川畑会長が昭和62年12月に他界され、その後を引き継がれたのが小倉宝蔵さん、8ミリフィルムからビデオに変わる頃の会長さんだった。その小倉会長も病気で亡くなられ、私が会長を引き受けたのが平成7年12月、あれから丁度20年が過ぎ去った。引受けたときの会員数は17名、会費2万円、大部分は例会場のホテルアウィナ会場費19万円ほどの高額だったため、会費が高かったのだ。その後安い会場を探して、阿倍野学習センターに移り、更に梅田の生涯学習センターへ移ったが部屋の環境が悪いため(音が廊下へ漏れて苦情多し)平成16年2月例会より現在の難波学習センターが例会場となり今日に至っている。こうした歴史が判るのも会報の存在があればこそだ。次に700号記念号まで私が生きている保証はない。或いはOMCニュースという紙の会報が無くなってメール等の媒体に変わっているかも知れない。しかし、現在会員数38名という盛会ぶりを何とか今後も続けていってほしい。そしてそれを後世に伝える「会報」を継続していってほしいと願わずにはいられない。年末に当り、本年は会員の皆さんのご支援ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

12月例会のお知らせ

■**第2例会**：第3木曜17日13時より、一般作品上映後、参考作品鑑賞会。

■**通常例会**：第4土曜26日18時より、来年度会費1万円(臨時世話役会で承認済)を会計に納めて下さい。また当日13時より幹事会、15時より世話役会開催。よろしくお願いいたします。

ＯＭＣ会報６００号によせて

有村　博

私達のOMCは何時発足したのでしょうか。私の手元にある昭和54年（1979年）8月のディリースポーツ新聞の文化欄の記事には昭和14年に数人の同好者が集まって出来て今年40周年を迎えた、とあります。そして無数にある同種のクラブの中でも長い伝統と腕の良い人が揃っている全国有数のクラブだと書かれています。なんとOMCは今から76年も前に出来たのですね。

当時は昭和7年に家庭用に発売が開始された8ミリフィルムの時代で、16ミリフィルムの片側を撮影し、反転してもう一方の側を撮影、現像して縦割きにして8ミリにするダブル8フィルムの時代で、カラーも無かった白黒フィルムの時代でした。

そして今年平成27年の12月の会報が600号になります。1年12回として50年です。今年はOMC発足76年、会報発行50周年なのです。OMC映像フェスティバルも55回目をこの9月に終えました。

私は昭和43年（1968年）10月の第8回映写会の時に朝日生命ホールで入会して47年が経過しました。その間46回の映写会に作品を出品発表してきました。ダブル8、シングル8、スーパー8のフィルム時代、VHSベータービデオ、S－VHS, Hi－8, DV, HDV, AVCHDビデオと時代は変遷し、今後は4K、8Kの時代に移ろうとしています。

この歴史ある素晴らしいクラブ、OMCに在籍されている皆さんと共に、より楽しく見事な作品作りに励んでゆこうではありませんか！

■臨時世話役会で、来期の運営に付き討議

大阪ビデオクラブ（OVC）と7月に合併し、第3木曜日 13 時より第2例会を開いていますが、それに伴い例会の運営のやり方や世話役の役割分担、会場費の経費アップに伴う会計の見直しなどをOMCと元OVC世話役さんに集まって頂き討議しました。その結果、現在の世話役さんは原則として留任していただくことに。また経費節減のため第2例会は奇数月のみに開催、フェスティバル出品料10分迄8千円を1万円に、大阪アマ出品料補助金3千円を廃止、年度賞トロフィを表彰状のみに、全例会出品者等の記念品贈呈BD-REをBD-Rに変更するという諸施策をいたしますが、それでも会計的に健全とはなりませんので、止むを得ず会費8千円を1万円に改定せざるを得ません。これで繰越金を取り崩すことなく運営できます。現在のスピーカーも一部破損しており、上映機材、録画機材がいつ故障や取り換え等があっても困らないよう、30万円ほどの繰越し金（予備費）は減らしたくないものです。一方、会員減少を一人でも減らし、新入会員さんを増やし、安定運営の目途となる40人会員数を維持していきたいものです。乞ご協力。

■予告：新年会は1月例会の夜23日17時～　今月ニュースにハガキを同封しますので必ず早めに会長宛出欠を知らせてください。会費は5,000円です。

前田会員が全国コンに入選

このほど行われた第8回よなご映像フェスティバル一般公募部門に、前田茂夫さんの「あるお地蔵さんのお噺」が入選を果たされました。おめでとうございます。

所沢で４Ｋ作品発表会を観る

去る11月29日（日曜）埼玉県所沢市で開催された「所沢市映像発表会」を観に行きました。初の4K映像が発表されるとあって、どんなものかと関心があったからです。

4K作品ではブルーレイ等にやけないためパソコンを持ち込んでの上映です。4K映像は成程きれいでした。DVがHDVに変わったときのきれい差は鮮明でしたが、今のハイビジョンもきれいなので、あえて4Kに進化させる意味は、アマチュア映像の世界ではあまり無いのではと思いました。

何でもパソコン容量が4倍とか6倍とか必要のようです。過去に3Dが話題になったことがありましたが、4Kはブルーレイなどの盤に出来ない（将来は出来るかも）のでは普及が難しいかもしれません。　　合原

井上世話役がＯＭＣの　フェイスブックを提案

11月28日の例会で、関世話役より井上世話役がOMC広報のためにフェイスブックを一般用と会員向けの2種類の原案をつくっていただきました、との報告がありました。ホームページは前田世話役が従来から開設していただいていますが、これを新しくつくり直すには大変な手間と経費がかかるようです。一方フェイスブックは、経費がかからないということで、若い人から熟年者まで幅広い使われ方をしているようです。但し、利用するには、本人の本名を登録する必要があるとのことです。利用者同志で言葉のやり取りが出来て、お友達がたくさんつくれ、それだけOMCの存在をPRできる、というわけです。ユーチューブというものも存在しますが、誰でも仮名で入れるものの、著作権がうるさいとか、経費がかかりそうだとか、話によっては炎上しやすいとか、いろいろ課題もあるようです。

確かに、今のOMCの広報は会員向けの紙によるニュースの発行と、前田世話役のホームページによるOMC Newsを転載しているだけで、どれだけ外部の人にアッピールしているか未知なものがあります。

一方、会員の高齢化はますます進んでおり、このままでいると将来OMC会員が次第に減ってきて遂には存在そのものが危うくなるのではないかという危機があります。これを防ぐには、新しい会員を年々補充していかねばなりません。そのためのフェイスブックということであれば、何とか、これを活かしてOMCの存在を世の中に知らしめ、ビデオに関心のある方を一人でも多く入っていただくことを心掛けるのも必要ではないかと考えます。

残念ながら、私、会長としてはパソコンにいたって弱く、未だにメールも何もやっていないので、ユーチューブだのフェイスブックなどと言われてもチンプンカンで誠に恥ずかしい限りではありますが、こと、OMC将来へのため、と言われれば、そっぽを向いているわけには参りません。私も何とか”べんきょう”して、ひと様の最後尾に付いていけたらと夢見ている現状ですが、どうぞ、皆さん、フェイスブックの仲間入りをしていただいて、OMC広報にひと役買って助けていただけたらと念願しております。

会長　合原一夫

難波市民学習センターの　春のセンターまつりに　ＯＭＣが初参加決まる

毎年行われている大阪難波市民学習センターの「春のセンターまつり」に、OMCは今まで参加したことはありませんでしたが、このほどセンターからのお誘いもあって参加することにしました。

・日　時：平成28年3月12日（土曜）
13時30分～15時30分
・場　所：第１研修室（５０人程度）
・テーマ：大阪を題材とした過去～現在の作品を上映

大阪をテーマとした作品をお持ちの方で出品してもいいと思われる方は、できるだけ早く関世話役へご連絡ください。なお、会場費は無料ですが、OMCとしてはプログラム作成費や郵送料とか若干の経費がかかりますので、10分までの作品は3000円、1分増す毎に300円UPの出品料を予定していますのでご了承ください。

来年度歌会はじめの「題」に合わせて　「課題コン」実施

従来OVCの年中行事の一つに「課題コンテスト」というのものがありました。これは毎年1月に行われる宮中の歌会はじめの「題」に合わせて10分以内の作品をつくろうというコンテストで、1月に来年度の題が発表されますので、それから作品をつくって5月のOVC例会で腕を競っていました。割合好評でしたので、OMCとして引継いで開催したいと思います。OMCとしては5月の第2例会日に課題コンの互選会を実施したいと思います。新春にどんな来年度の「題」が発表されるのか、楽しみに待ちましょう。過去には、青、道、幸などありました。

■新入会員ご紹介

・串宮秀和さん　〒939-8072
富山市堀川町67-2　tel 0764-23-5597

■名簿の追加・訂正

・鉄具嘉夫さん
電話番号072-892-9527,090-8234-6186
・西村亀雄さん
〒552-0003 大阪市港区磯路3-12-20
E-mail　nisimura@cwo2.bai.ne.jp
・森田光春さん
訂正E-mail　mitsuharu@opal.plala.or.jp

・合原一夫さん
再掲載 E-mail k-gohara@grape.plala.or.jp

以上よろしくお願いいたします。

１１月通常例会レポート

寒くなってきた28日18時より、いつもの難波市民学習センターにて開催。寒さのせいかいつもより数名少ない19名の出席者と9本の作品出品で、ゆったりとした進行で意見の交換も出来、内容ある例会になったと思います。司会は、有村氏、書記、合原氏、上映担当、井上、河合の両氏、録画担当、江村氏、受付兼照明係、宮崎、森下の両氏、掲示係りに紙本氏の担当で会を進行しました。

■出席者：赤澤、有村、稲田、井上、江村、岡本、紙本、河合、合原、進藤、関、高瀬、坪井、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田の19氏と作品9本でした。

■上映（全作品BD）

1）幻の大仏鉄道
紙本　勝　　１２分４０秒

名古屋から奈良、大阪を結ぶ鉄路の一部大仏鉄道は、加茂～奈良間12km、明治31年開業、40年廃業というたったの9年間しか使われていなかった「幻の鉄道」です。作者の廃線ぶらり歩きNo.4は、この幻の線路歩きを6時間に渡ってなされました。ご自分の歩く姿を撮りながら歩き続けられるそのご努力に敬意を表します。歩くこと、撮影することを楽しまれている様子が作品に滲み出ています。珍しいテーマでもあり早くもフェスティバル候補がでた感じがしました。

2）プリズレンとスコピエ
華岡　汪　　９分３８秒

プリズレンはコソヴォの首都、スコピエはマケドニアの首都の名だそうです。

ギリシャやセルビア等に隣接するこれらの新興国は、かつてコソヴォ紛争など争いの絶えなかった、ややこしいところです。

そこは古くから栄えた土地で石造りの世界遺産が数多く残されていて観光客も多く訪ねるところらしい。しかしこうした、あまり日本人が行かないところへよく行かれる華岡さんには、いつも珍しい観光地を案内して頂き楽しみの一つになっています。

3）大和三山と藤原京跡
有村　博　　７分１５秒

インターネットで調べて行ってみたいということになり、奈良県橿原市の近鉄大和八木駅で自転車を借りてサイクリングをされました。大和三山を巡る撮影紀行です。

耳成山から香具山、天岩戸神社参拝、畝傍山、神武天皇御陵参拝、橿原神宮、藤原宮跡、山の辺の道、平城宮跡の朱雀門を最後としたサイクリングの旅で「1300年前の古代人たちの壮大な行動に想いを馳せながらの楽しいサイクリングの一日であった」とナレーションで締めくくられています。なるほど観ている方もつい惹きこまれる大和三山の風景でした。

4）シャクヤク園コンサート
江村一郎　　７分５０秒

八尾市久宝寺緑地のシャクヤク園で行われた夕方からの演奏会で撮影されたもので、例によってナレーション無しの映像とライトアップされたシャクヤクの花とのコラボレーション作品。シャクヤクの花が満開できれいです。琴の演奏など、かなり近景で撮られています。数メートルの位置からズームアップされたか。こういうテーマを作品にするには、如何に雰囲気をかもし出し美しく描くかに尽きるでしょうが、まずまずの出来ではなかったかと思います。ヤマバにサクラサクラの琴の音が響きますが、シャクヤクの花に何故サクラサクラなのでしょうか、という司会者の声が出ました。

5）彩りの神護寺
森口吉正　　８分５０秒

今年の紅葉ではありませんが、何年か前に撮影されたもので、11月中旬頃の神護寺の紅葉だそうです。森口さんらしい落ちついた丁寧な映像づくりで、安心して拝見できます。清滝川あたりの紅葉はまだ少し早かったようですが、長い坂道を登っていくとだんだん美しい紅葉が見られるようになってきます。途中、高齢者の二人が助け合いながら石段をのぼっていくカット等が活きていました。また作者が、かわらけを投げ見事に遠くに飛ぶカット等は作品に幅をもたせる効果的なシーンでした。

5）時空を超えて 織田城下町
進藤信男　　１１分１３秒

兵庫県丹波市柏原町、丹波の米どころの町で、柏原と書いて「かいばら」と呼ぶそうです。織田信長に縁のある町で、今でもそれらしい神社や火の見櫓、そして祭り行事が遺っています。中心となる柏原八幡神社は京都岩清水八幡宮の別院として建てられたものですが、明智光秀の丹波攻めで炎上消失、それを後に秀吉が再建した等の歴史が語られ、織田まつり行列へと続くわけですが、ナレーションの内容がくわし過ぎて観ている方が消化不良のまま話が進行するので、せっかくの作品が勿体ないと思います。構想を練り直したらいい作品になると思います。

6）夕やけの道

前田茂夫　　６分２５秒

副題として”孫と自転車で”とありました。久しぶりに訪ねてきたお孫さん（小学３年生）と淀川の堤防の上を、夕方2台の自転車を連ねて休憩をはさんでひたすら走るという前田作品としては珍しいホームムービーです。私の子供も幼稚園から小学校低学年の頃までは、カメラを意識せず、無邪気に被写体になってくれたものすが、次第に大きくなると、撮影されるのを嫌がるようになったことを思い出しながら拝見していました。お孫さんの柊くんの表情から、もうカメラを避けたい気持ちが出てきたのかなあと思われます。幼い子供は自然の状態が撮り易いのですが、10歳前後からだんだん嫌がるようになるものです。

作者も小型カメラ2台を使っていろいろと苦労して撮影された様子が伺われて、苦心してこの作品をまとめられたのだなあと感じ入りました。作品のねらいとしては良かったと思います。

8）思い出に生きるケヤキ

高瀬辰雄　　１２分３０秒

京都葵祭の際、上鴨神社へ行く途中の加茂街道で鴨川の上に架けられた御園橋のたもとに、古い大きなケヤキの樹があります。

この御園橋は交通量が多くいつも渋滞しているため架け替え工事をするので、このケヤキを伐採することに。地元の人に親しまれたきたこの大樹の木が伐採されることを惜しんだ人たちが、短冊に思いを込めて書き記し、樹にぶら下げています。いよいよ伐採が始まり人々が見守っています。

なかなかこういうテーマに出合えませんが、作者はよくこのチャンスを逃がさず撮影されました。順序良く記録として描かれており、これはこれで感動ものですが、もうひと押し作者の思い、この大樹を愛し親しんできた人達の気持ちを突っ込んだ描き方ができないかと思います。

大樹を伐採する音をバックに人の顔のアップ（これから撮ったものでもよいが）と思いを込めて書かれた短冊の文字とのフラッシュバックの画面があったら、この樹に対する思いや有難うさんでした、の感謝の気持が強調されて、この作品を観る観客の共感を得る作品になるのではないか、そんな思いがしました。全国コンの応募作品を目指しませんか。この作品が単なる記録として終わるのは惜しい気がします。記録だけではない作品と考えれば、クレーンに吊られた枝木が旋回しているロングや小割りするところ、ゴミ収集車などの説明的カットは最小限にとどめるか無くした方がよいと思います。自分の思いを中心に描いたら何を入れ、どれを捨てるか判断がつく筈です。

9）北条鉄道

赤澤與三郎　　８分００秒

神戸映像発表会で上映された作品の中から、参考作品として持参されたもの。井上会員によると神戸でもベテランの作者とのこと。ドローンをうまく利用して作品にされています。ドローンによる撮影映像は初めて拝見しましたが、それなりに苦労と経費がかかったことと思います。

ＯＭＣ第２例会のレポート

第2例会は11月19日13時より難波市民学習センターで開催。今月は前半、合原講師による「脚本、構想について」の講義、後半は一般作品5本の上映が行われました。

今月の司会は柴辻さん、書記、合原さん、映写係、河合、進藤のご両人、受付、宮崎さんとお手伝いとして森口さん、掲示は紙本さんでした。

■出席者：有村、江村、紙本、河合、植村、稲田、合原、柴辻、西村、関、高瀬、進藤、前田、宮崎、森口、森下の16人。

■「脚本・構想」について　講師 合原一夫

テキスト配布。旅行や行事もの、イベント、ホームビデオ、祭り、風景等に多くの映像仲間が撮影して来られ、それを編集し、音楽

やナレーションも入れて例会に持参し第三者に見てもらうことが一つの楽しみであり、喜びでもあります。ですが、せっかく作るのですから、少しでも良い作品を、と願うのも当然でしょう。

今回のテーマは、こうした要望に応えてどうしたらよい作品、第三者が見て共感や感動を与える作品になるかという点から、作品事例を混えて講義がありました。

・**作品事例1.「ベランダ」**昭和47年作
東海テレビ全日本コンテスト入賞作品

・**作品事例2.「ベトナムの女たち」**平成10年作　東京アマチュア映像祭ビデオコンテスト最優秀賞作品

・**作品事例3.「よく頑張ってきたね」**
平成　27年作品　21分

・**作品事例4.「よく頑張ってきたね」**同上
作品21分を7分に短縮した作例。

やはり短くしすぎると奥行きとゆとりが無くなるという例になり再構成の要あり。

・上映後、いろいろと意見の交換があり、脚本、構成についての勉強会はひとまず終了しました。休憩をはさんで第2部の一般作品上映に入りました。

1）大阪散策
有村　博　　１９分２５秒

昭和57年(1984)キャノンコンVTR部門第2席入賞作品。八尾飛行場から飛び立った小型飛行機に同乗し、空から大阪市街、大阪城、南港あたりを撮影されています。折から大阪城築城400年祭りの年でいろんなイベントが行われています。帆船が世界各地から集まってきたのもこの年だったようです。なつかしい映像で当時を思い出しながら拝見いたしました。

2）大井川鉄道ＳＬ転車台
江村一郎　　８分００秒

今どきSL転車台の竣工式に出合うなど珍しいことです。楽隊の演奏やぬいぐるみのチャリムくんなども登場し、結構賑やかな竣工式を描いておられます。平成23年撮影とか。ラストは大井川鉄橋を渡るSL列車の雄姿で締めくくられていました。

3）マンホール紀行　第５編四国、九州編
紙本　勝　　１３分００秒

香川県高松市丸亀町、壇ノ浦合戦の模様を描いたマンホールから始まって観音寺市うちわ作り、徳島県美馬市脇町、うだつの城下町、新居浜市の祭り、砥部町の焼もの、福岡県田川市、炭坑節発祥地、大分県の中津城、宇佐市の石アーチ橋、佐賀県唐津市の虹の松原、それから対馬へ渡り、最後熊本県の山鹿灯篭祭で終わるという、壮大な旅ものがたりで、紙本さんの健脚ぶりには感心いたします。それにしても、マンホールの蓋のデザインをよく見れば、その土地の自慢のものが描かれていることがよく判りました。できれば、マンホールの絵柄をもっとじっくりと近場で描き、実景へと繋いでいく手法も間に取り入れて頂いてもいいのではないかと思いました。

4）春が来た…
柴辻英一　　９分００秒

堺市の郊外にあるサーベストの丘で行われた或るクラブの撮影会風景をデジカメを使って撮影されたもの。まずは参加者の記念写真からスタートします。あとは自由撮影で人気の乗り物のに乗ったり、カメラマンの姿を追いかけたり、昼食タイムを記録したり充分楽しまれた撮影会風景を描いた作品でした。

ついでながら申し上げますと、作品のトップにカラーバーがありますが、例会作品としては不要なカットですので省かれるよう希望いたします。

5）鞍馬の火祭り
高瀬辰雄　　１２分２５秒

毎年10月22日に行われる鞍馬の火祭り、由岐神社の祭礼です。この例祭の由来を字幕説明されます。夕方になると大松明に火をつけ、氏子たちが「さいれいや、さいりょう(祭礼や最良の意味とか)」と叫びながら由岐神社へ行列が続きます。御輿も出て祭りらしい雰囲気が盛り上ります。

なかなかこれだけのカットを撮るのは大変だったと思われます。ご苦労様でした。

これで上映を終わり散会しました。